

授業科目	理学療法概論	科目担当者	野口 敦
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 45 時間
授業形態	講義・演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	理学療法概念や歴史を学び、活躍場面や取り巻く環境などを講義する。具体的には理学療法の対象および役割、そして求められる要素を理解して、理学療法士の使命を把握する。 また ICT を活用して理学療法士として必要な知識を収集してまとめ、グループ討議を行い、プレゼン発表を行う。積極的なディスカッションを行い、医療施設や介護施設、障害者スポーツ場面での理学療法の興味や知識を深める。		
到達目標	①「理学療法とは何か」を説明できるようになる。 ②関連性の多い多職種の説明できるようになる。 ③課題を提示し、それを調べてプレゼンテーションを行う。積極的なグループ討議をして知識を深める。 ④この授業を通じて、自分自身の理学療法士像を描けるようになる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	グループワーク まとめ・発表練習
第 2 回	理学療法とは	第 17 回	グループ発表
第 3 回	車いすテニス 見学	第 18 回	理学療法士に求められる要素
第 4 回		第 19 回	ハラスメント
第 5 回	理学療法の職域	第 20 回	記録・報告
第 6 回	労働対価と社会保険	第 21 回	医療事故・感染予防
第 7 回	理学療法士の協働職種	第 22 回	障害受容
第 8 回	世界の理学療法	第 23 回	まとめ
第 9 回	ICF と ICIDH		
第 10 回	国際生活機能分類（ICF）		
第 11 回	ICF 事例 演習		
第 12 回	理学療法評価		
第 13 回	グループワーク 課題に提示・資料作成		
第 14 回	グループワーク 資料作成・討論		
第 15 回	グループワーク 資料作成・討論		
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業の積極的取組 20%、プレゼンテーション 30%、試験 50%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	教科書を事前に目を通し、広い視野で理学療法の理解を深める。グループ発表では積極的な意見交換ができるように、事後学習をしっかりと行いましょう。		
教科書又は 参考書等	教科書：庄本 康治 編：「PT・OT ビジュアルテキスト理学療法概論第 1 刷」羊土社 参考書：千住 秀明 監：「理学療法概論改訂第 4 版」神陵文庫 参考書：細田 多穂 監：「理学療法概論テキスト改訂第 3 版」南江堂 参考書：網本 和 監：「基礎理学療法概論」メジカルビュー社		
オフィスアワー	火～土曜日 終日 職員室		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	理学療法の歴史から定義、臨床場面における基本となる構成概念を講義・演習を行う。 また、課題に対してグループ調査から発表までを積極的な討議ができるようにしましょう。		

授業科目	理学療法研究入門	科目担当者	野口 敦
学年	3 年	学期/時間数	前期 / 45 時間
授業形態	講義・演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	①適切な理学療法を探索するための研究方法を学ぶ。 ②理学療法における興味ある分野・領域の研究論文を検索・読解する。 ③医療統計の基礎を学ぶ。 ④論文作成や学会発表におけるマナーを学ぶ。		
到達目標	①理学療法における研究の意義を理解できる。 ②適切なキーワードを用い、興味ある分野・領域での文献検索ができる。 ③研究に必要な統計学手法を選択できる。 ④学会等における口述発表、ポスター発表の方法を学ぶことができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	研究の意義、目的	第 16 回	多変量解析演習①
第 2 回	研究テーマを探す、先行研究の検索	第 17 回	多変量解析演習②
第 3 回	研究デザイン	第 18 回	グラフ・表の作成
第 4 回	PECO と PICO	第 19 回	結果の解釈
第 5 回	測定データ収集のための知識	第 20 回	文献抄読 （演習）
第 6 回	研究計画書の作成	第 21 回	抄録・論文の作成
第 7 回	記述統計学と推測統計学、尺度水準	第 22 回	ポスター・スライドの作成
第 8 回	2 つの変数の解析手法	第 23 回	ポスター発表・口述発表
第 9 回	二変量解析演習①	第 24 回	
第 10 回	二変量解析演習②	第 25 回	
第 11 回	グラフ・表の作成	第 26 回	
第 12 回	結果の解釈	第 27 回	
第 13 回	文献抄読 （演習）	第 28 回	
第 14 回	文献抄読 （演習）	第 29 回	
第 15 回	3 つ以上の変数の解析手法	第 30 回	
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕	授業参画度 20%、課題提出 30%、課題発表 50%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	統計学を再度学習し、教科書を事前に目を通す。論理的に文章にまとめ、伝えることができるように文献をしっかりと読む。		
教科書又は 参考書等	講義中の配布資料		
オフィスアワー	講義終了後、教員室		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	エビデンスに基づいた理学療法研究の手法を学ぶ機会とする。		

授業科目	理学療法卒業演習	科目担当者	矢原友成・大島秀明・中野浩志・ 竹本美咲・河波恭弘・野口敦
学年	3 年	学期/時間数	後期 / 90 時間
授業形態	演習	単位数	3 単位
授業の概要と方法	臨床実習で得たデータをもとにテーマを決定してポスター発表する。 指導教官の指導の下、活発な意見交換を行いながら一つのポスターにまとめ報告する。 また本講座は、理学療法の基礎知識と専門知識を整理することで国家試験対策としても重要な意味を成している。 よって、計 5 回の国試実力試験を受験して、その到達度を確認する。		
到達目標	臨床実習も含め、本学院で履修したすべての講義を通して、特に興味をもった事柄に焦点をあて研究し、ポスター形式にまとめて発表する。 卒業を判定する国試実力試験に向けての勉強方法を確立し、国家試験に合格するレベルまで達する。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	担当教官によるオリエンテーション
第 2 回	テーマの設定
第 3 回	テーマの決定
第 4 回	先行研究の調査
第 5 回	抄録の作成
第 6 回	抄録の作成
第 7 回	ポスター作成
第 8 回	ポスター作成
第 9 回	ポスター作成
第 10 回	ポスター発表
第 11 回	国試関連試験①
第 12 回	国試関連試験②
第 13 回	国試関連試験③
第 14 回	国試関連試験④
第 15 回	国試関連試験⑤
成績方法 〔評価項目と割合〕	ポスターおよび抄録の完成、提出は必須。 発表内容や作成への取り組み、国試関連試験の結果を総合的に評価する。
準備学習と事後学習 のアドバイス	不明な時は指導教官に尋ね指導を仰ぐように。
教科書又は 参考書等	随時、資料配布
オフィスアワー	随時可能
教員の実務経験	理学療法士
実務経験を活かした 教育内容	臨床実習で得たデータを使った研究方法、ポスター作成・発表の方法を指導する。 また、国家試験対策としての学習方法も指導を行う。

授業科目	理学療法管理学	科目担当者	河波 恭弘
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	国家資格を付与される理学療法士は、知識技術を提供する際にマネジメント能力が求められます。この授業では、職場で求められる管理業務である診療・介護報酬をはじめ、診療記録、他職種との業務調整、カンファレンス、安全管理、コンプライアンス、ハラスメントなど理学療法の職業管理と合わせて臨床教育の基本についても学びます。 ・授業は、教科書、資料を利用しながら対面授業を基本とします。		
到達目標	1. 医療保険・介護保険制度を基に診療・介護報酬について説明できる。 2. 理学療法実施における書類管理、機器安全管理、および多職種との業務連携等を説明できる。 3. 人事考課、労務管理について説明できる。 4. 理学療法士に求められる職業倫理としてコンプライアンス、法令違反等の説明ができる。 5. 理学療法士養成教育の歴史、内容および臨床実習・臨床教育の方法について説明できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	管理学について（概要）
第 2 回	病院の分類・組織と関連法規について
第 3 回	医療・介護制度と報酬（診療・介護報酬）について
第 4 回	理学療法実施後の記録・書類の管理について
第 5 回	医療スタッフ間の業務連携、カンファレンス、各種勉強会について
第 6 回	理学療法機器の保守点検・安全管理、配置計画について
第 7 回	人事考課、労務管理について
第 8 回	コンプライアンス、法令違反、医療広告ガイドラインについて
第 9 回	ハラスメントについて
第 10 回	理学療法教育の歴史、内容について
第 11 回	他職種との連携①
第 12 回	他職種との連携②
第 13 回	臨床教育（実習）の方法および評価、感染症予防・対策について
第 14 回	職域の現状と今後の方向性（これから期待される理学療法の領域）
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	授業への積極的取組 10%，筆記試験 90%
準備学習と事後学習 のアドバイス	将来社会の中で専門職として活躍するとき、管理・運営の視点が必ず必要となります。授業は資料を配布して行います。教科書、参考書を利用し予習・復習すれば確実なものとなります。
教科書又は 参考書等	教科書：齋藤 昭彦・下田 信明 編集：「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション管理学」羊土社
オフィスアワー	毎週水曜、木曜の 16 時～18 時まで、職員室にて対応可能。
教員の実務経験	理学療法士
その他	臨床経験として、急性期・回復期・生活期の理学療法に従事、病院におけるリハビリテーションの立上げ、新人教育、中堅者教育、労務、コンプライアンス、ハラスメント、多職種連携を含む管理を経験している。

授業科目	理学療法評価学Ⅰ	科目担当者	中野 浩志
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 45 時間
授業形態	講義・演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	理学療法評価の基本的な考え方や基礎的な検査方法の理解を深めていく。 評価とは何か、何のために評価するのか、障害とは何か、しっかりと考えながら実践に取り組めるよう講義を進めていく。 必要に応じ実技を交えながら進める。		
到達目標	①理学療法評価の意義・目的を理解できる。 ②学習した検査・測定を健常者に的確に実施できる。 ③理学療法評価学Ⅱ・各疾患別の理学療法へとつなげることができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	下肢の関節可動域（ROM）測定の実際①（実技演習）
第 2 回	理学療法評価法総論	第 17 回	下肢の関節可動域（ROM）測定の実際②（実技演習）
第 3 回	一般的評価と形態測定	第 18 回	
第 4 回		第 19 回	体幹の関節可動域（ROM）測定の実際①（実技演習）
第 5 回	形態測定の実際①（実技演習）	第 20 回	
第 6 回		第 21 回	体幹の関節可動域（ROM）測定の実際②（実技演習）
第 7 回	形態測定の実際②（実技演習）	第 22 回	
第 8 回		第 23 回	まとめ
第 9 回	関節可動域（ROM）測定の定義と目的、留意点と記録法		
第 10 回			
第 11 回	上肢の関節可動域（ROM）測定の実際①（実技演習）		
第 12 回			
第 13 回	上肢の関節可動域（ROM）測定の実際②（実技演習）		
第 14 回			
第 15 回	下肢の関節可動域（ROM）測定の実際①（実技演習）		
成績評価の方法 [評価項目と割合]	筆記試験 60%、実技試験 20%、レポート 10%、授業での積極的取組 10%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	実技の際には原則として実習服で行うこと。その都度指示を行う。		
教科書又は 参考書等	教科書：千住 秀明・他：「理学療法評価法第 3 版」神陵文庫 参考書：松澤 正・江口 勝彦：「理学療法評価学第 6 版補訂版」金原出版		
オフィスアワー	毎週木曜（～17：30）		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	臨床現場で多用する理学療法評価学について、実際の現場を想定し実技指導を行う。		

授業科目	理学療法評価学Ⅱ	科目担当者	中野 浩志
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 60 時間
授業形態	講義・演習	単位数	3 単位
授業の概要と方法	理学療法評価の基本的な考え方や基礎的な検査方法の理解を深めていく。評価とは何か、何のために評価するのか、障害とは何か、しっかりと考えながら実践に取り組めるよう講義を進めていく。実技時間も多く取りながら技術の習得を目指す。		
到達目標	①理学療法評価の意義・目的を理解できる。 ②学習した検査・測定を健常者に的確に実施できる。 ③各疾患別の理学療法へとつなげることができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	上肢帯の徒手筋力検査法 (MMT) の実際 (実技演習)	第 16 回	反射・反応検査の意義と実際① (実技演習)
第 2 回		第 17 回	反射・反応検査の意義と実際② (実技演習)
第 3 回	下肢帯の徒手筋力検査法 (MMT) の実際① (実技演習)	第 18 回	
第 4 回		第 19 回	バランス能力評価の意義と実際 (実技演習)
第 5 回	下肢帯の徒手筋力検査法 (MMT) の実際② (実技演習)	第 20 回	
第 6 回		第 21 回	協調性検査の意義と実際 (実技演習)
第 7 回	体幹部の徒手筋力検査法 (MMT) の実際 (実技演習)	第 22 回	
第 8 回		第 23 回	意識障害の意義と実際 (実技演習)
第 9 回	感覚検査の意義と実際① (実技演習)	第 24 回	
第 10 回		第 25 回	疼痛評価の意義と実際 (実技演習)
第 11 回	感覚検査の意義と実際② (実技演習)	第 26 回	
第 12 回		第 27 回	アライメント評価の意義と実際 (実技演習)
第 13 回	筋緊張検査の意義と実際 (実技演習)	第 28 回	
第 14 回		第 29 回	まとめ
第 15 回	反射・反応検査の意義と実際① (実技演習)	第 30 回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	筆記試験 60%、実技試験 20%、レポート 10%、積極的取組 10% 中間試験実施予定		
準備学習と事後学習 のアドバイス	実技も行いますが検査の基礎となる暗記も必要です。その都度暗記を進めながら講義に臨んでください。理学療法の基本となる科目です。検査項目が多く、1つ1つ理解するには日々の学習が大切です。分からないことがあればその都度解決するように心がけてください。臨床現場でとても多く行う検査ですのでしっかり学習してください。		
教科書又は 参考書等	教科書：千住 秀明・他 編：「理学療法評価法第3版」神陵文庫 教科書：津山 直一 訳：「新・徒手筋力検査法第10版」協同医書 参考書：田崎 義昭・他 著：「ベットサイドの神経の診かた第18版」南山堂 参考書：松澤 正・江口 勝彦：「理学療法評価学第6版補訂版」金原出版 参考書：奈良 勲・他 編：「図解理学療法検査・測定ガイド第2版」文光堂		
オフィスアワー	木曜日終日		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	理学療法評価学Ⅰ同様、臨床現場で多用する理学療法評価学について、実際の現場を想定し実技指導を行う。		

授業科目	動作分析学Ⅱ	科目担当者	河波 恭弘
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	運動学Ⅰ・Ⅱや動作分析学Ⅰで学ぶ身体のメカニズムについて、三次元解析装置、床反力計、筋電図を使用し、計測方法やその基礎理論、分析方法について学習する。またそれに必要な運動力学や数学的基礎、電気的解釈について講義する。身体運動におけるバイオメカニクスの姿勢・歩行の定量化について学ぶ。画像評価、映像評価について学習する。		
到達目標	1. 三次元解析装置の基礎理論、解析内容について理解できる。 2. 床反力計の基礎理論、解析内容について理解できる。 3. 筋電図の基礎理論、解析内容について理解できる。 4. 各計測装置で計測できるパラメータについて理解できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	三次元動作解析装置について 総論と基礎知識
第 2 回	三次元動作解析装置について 計測方法指導
第 3 回	三次元動作解析装置について 計測演習①
第 4 回	三次元動作解析装置について 計測演習②
第 5 回	三次元動作解析装置について 発表
第 6 回	床反力計について 総論と基礎知識
第 7 回	床反力計について 計測方法指導
第 8 回	床反力計について 計測演習①
第 9 回	床反力計について 計測演習②
第 10 回	床反力計について 発表
第 11 回	筋電図について 総論と基礎知識
第 12 回	筋電図について 計測方法指導
第 13 回	筋電図について 計測演習①
第 14 回	筋電図について 計測演習②
第 15 回	筋電図について 発表
成績方法 [評価項目と割合]	小テスト (40%)、発表 (40%)、授業の積極的取り組み (20%)
準備学習と事後学習 のアドバイス	計測するにあたり、基礎的な数学の知識として関数やベクトル、電位の内容理解が必要です。講義中に説明した内容についてしっかり復習し、都度理解するよう努めましょう。
教科書又は 参考書等	特になし その都度、授業中に資料を配布する。
オフィスアワー	水曜、木曜 16:00-18:00
教員の実務経験	理学療法士
実務経験を活かした 教育内容	おもに高齢者の動作分析や生体計測の実務経験を有する。その経験から、基礎的な内容理解や計測実践方法について指導する。

授業科目	動作分析学Ⅲ	科目担当者	河波 恭弘
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 60 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	脳血管疾患、脊髄損傷、整形外科疾患の動作を観察し分析すること。講義資料を配布し、各疾患の動画や画像を視聴しながらグループディスカッション（GD）を行い考察する。		
到達目標	1 姿勢・歩行・基本動作の分析方法の基本概念を理解できる。 2 代表的疾患を有する患者の動作分析を行い、それらの結果を臨床的に解釈できる。 3 クリニカル・リーズニングに基づいた理学療法評価の流れを把握できる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	動作分析の進め方・動作分析の展開	第 16 回	脳血管障害の歩行分析②（GD）
第 2 回	クリニカル・リーズニング	第 17 回	脳血管障害の歩行分析③
第 3 回	四肢麻痺の動作と分析①	第 18 回	脳血管障害の歩行分析④（GD）
第 4 回	四肢麻痺の動作と分析②（GD）	第 19 回	脳血管障害の歩行分析⑤
第 5 回	四肢麻痺の動作と分析③	第 20 回	脳血管障害の歩行分析⑥（GD）
第 6 回	四肢麻痺の動作と分析④（GD）	第 21 回	下肢関節障害の動作と分析①
第 7 回	対麻痺の動作と分析①	第 22 回	下肢関節障害の動作と分析②（GD）
第 8 回	対麻痺の動作と分析②（GD）	第 23 回	下肢関節障害の動作と分析③
第 9 回	不全四肢麻痺の動作と分析①	第 24 回	下肢関節障害の動作と分析④（GD）
第 10 回	不全四肢麻痺の動作と分析②（GD）	第 25 回	下肢関節障害の動作と分析⑤（GD）
第 11 回	脳血管障害の動作と分析①	第 26 回	上肢障害の動作と分析①
第 12 回	脳血管障害の動作と分析②（GD）	第 27 回	上肢障害の動作と分析②（GD）
第 13 回	脳血管障害の動作と分析③	第 28 回	上肢障害の動作と分析③
第 14 回	脳血管障害の動作と分析④（GD）	第 29 回	上肢障害の動作と分析④（GD）
第 15 回	脳血管障害の歩行分析①	第 30 回	まとめ
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕	積極的取り組み（10％） レポート課題（10％） 筆記試験（80％）		
準備学習と事後学習 のアドバイス	学生自身が疾患毎の動作を観察し、正常動作とどこが違うのかを分析して、なぜ動作が困難なのかを考えてほしい。 また特徴的な疾患別動作を分析・解釈し、イメージできるようにしてほしい。常に疑問を持ち、解決する努力をしてほしい。		
教科書又は 参考書等	教科書：石井 慎一郎 編：「動作分析 臨床活用講座」メジカルビュー 教科書：Kirstein Gotz-Neumann 著：「観察による歩行分析」医学書院		
オフィスアワー	毎週水曜、木曜の 16 時～18 時まで、職員室にて対応可能。		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	病院での臨床経験で主に救急医療における呼吸器および循環器理学療法の実務を経験した。各疾患の姿勢や動作について観察し、さらに分析における仮説の立て方や力学的解釈について教授したい。		

授業科目	運動療法Ⅰ	科目担当者	大島 秀明
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 60 時間
授業形態	講義・演習	単位数	3 単位
授業の概要と方法	運動療法とは、身体機能障害や障害予防に対して、最も効果的な運動で高め回復させることを目的にしている。ここでは、基礎的知識、技術を習得することを目標におき、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心にまずは理論を講義形式で学習し、実践できるように演習形式で実技を学習する。また運動療法Ⅱにおける応用治療に繋がるよう基礎的な理論的背景を十分に理解する。		
到達目標	①運動療法に必要な解剖学、生理学、運動学などの基礎知識を身につけることができる。 ②運動療法に必要な理論を理解することができる。 ③基礎知識、理論をもとに実践し修得することができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	運動療法の概念 歴史、定義、目的、方法	第 16 回	目的 理論 方法(演習)
第 2 回		第 17 回	全身調整運動（ポジショニング・良肢位）
第 3 回	関節可動域運動 総論 目的 理論 方法	第 18 回	目的 理論 方法(演習)
第 4 回		第 19 回	リラクゼーション
第 5 回	関節可動域運動 実際（演習）	第 20 回	目的 理論 方法(演習)
第 6 回		第 21 回	神経運動器協調運動
第 7 回	関節包内運動 目的 理論 方法(演習)	第 22 回	目的 理論 方法(演習)
第 8 回		第 23 回	運動学習
第 9 回	ストレッチ 目的 理論 方法(演習)	第 24 回	目的 理論 方法(演習)
第 10 回		第 25 回	各種運動療法体操（グループワーク）
第 11 回	第 26 回		
第 12 回	第 27 回		
第 13 回	筋力増強運動 実際(演習)	第 28 回	総括
第 14 回		第 29 回	
第 15 回	筋・全身持久力運動	第 30 回	
成績方法 〔評価項目と割合〕	定期テスト 70%、実技テスト 20%、授業の積極的取組 10%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	運動療法は理学療法の中で根幹をなす教科の一つです。興味を持ち基本的知識を修得し、知識だけでなく実際の臨床場面を想定し治療技術を修得する。そのために常に疑問を抱き、解決するため理論的に思案し、学習してください。また、習得した実技を体現できるように練習をしてください。		
教科書又は 参考書等	教科書：奈良 勲 監：「標準理学療法学運動療法学 総論 第4版」医学書院 授業の中で、適宜、資料を配布する。		
オフィスアワー	月・火・木曜日 16 時～17 時 30 分 職員室		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	急性期から生活期まで幅広い病期の実務を通して、在宅復帰までの運動療法を実技も含め実践的に提供する。また、各疾患に共通する基礎的な運動療法を中心に提供する。		

授業科目	運動療法Ⅱ	科目担当者	大島 秀明・野口 敦 矢原 友成
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 60 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	運動療法とは、身体機能障害や障害予防に対して、最も効果的な運動で高め回復させることを目的にしている。ここでは、運動療法Ⅰで学んだ内容を基盤として、現在、臨床現場で行われている特殊な理学療法アプローチを紹介する。また、その基礎的知識、技術を習得することを目標におき、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心にまずは理論を講義形式で学習し、実践できるように演習形式で実技を学習する。		
到達目標	①特殊な運動療法の理論について説明できる。 ②理論に基づき、実践することができる。 ③理学療法プログラム立案において、治療の一つとして選択できる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	脳血管障害特殊テクニック（基礎） （野口）	第 16 回	Mobilization（股関節） （矢原）
第 2 回		第 17 回	
第 3 回	脳血管障害特殊テクニック（実際） （野口）	第 18 回	
第 4 回		第 19 回	
第 5 回	脳血管障害特殊テクニック 体幹のコントロール（野口）	第 20 回	Mobilization（膝関節） （矢原）
第 6 回		第 21 回	
第 7 回	脳血管障害特殊テクニック まとめ（野口）	第 22 回	Mobilization（まとめ） （矢原）
第 8 回		第 23 回	Redcode exercise therapy ①
第 9 回	Mobilization（概論） （矢原）	第 24 回	概論（演習） （大島）
第 10 回		第 25 回	Redcode exercise therapy ②
第 11 回	Mobilization（基礎・原理） （矢原）	第 26 回	評価（演習） （大島）
第 12 回		第 27 回	Redcode exercise therapy ③
第 13 回	Mobilization（肩関節） （矢原）	第 28 回	治療（演習） （大島）
第 14 回		第 29 回	Redcode exercise therapy ④
第 15 回		第 30 回	まとめ（演習） （大島）
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業への積極的取組 10%、定期試験 70%、実技試験 20%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	運動療法Ⅰをベースに特殊な運動療法を学びます。臨床の現場でよく目にすることがあります。 どのような疾患に対して行っているのか、授業を通して理解して下さい。		
教科書又は 参考書等	教科書：奈良 勲 監：「標準理学療法学運動療法学各論第 4 版」医学書院 参考書：細田 多穂・他 編：「理学療法ハンドブック改訂第 4 版」協同医書出版 配布資料		
オフィスアワー	毎週木曜 16：10～16：30 職員室		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	急性期から生活期まで幅広い病期の実務を通して、在宅復帰までの運動療法を実技も含め実践的に提供する。また、臨床現場で行われている特殊的な運動療法の理論と、さまざまな疾患におけるアプローチ方法について提供する。		

授業科目	物理療法	科目担当者	野口 敦
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 60 時間
授業形態	講義・演習	単位数	3 単位
授業の概要と方法	生理学的背景を基盤として講義を進め、物理療法の適応と禁忌を学習していく。 実際の機器を使用し、その方法や禁忌なども合わせて理解すること、また実技も合わせて行う。		
到達目標	①物理的刺激が生体に与える反応を生理学的に説明できる。 ②物理療法の重要性を理解して、適応・禁忌について説明できる。 ③物理療法機器の使用ができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	総論：物理療法の定義、分類、適応と禁忌	第 16 回	寒冷療法各論：実施上の注意点（演習）
第 2 回		第 17 回	光線療法総論：紫外線、赤外線、レーザー
第 3 回	総論：各種物理療法の生理学的効果と治療効果	第 18 回	
第 4 回		第 19 回	光線療法各論：実施上の注意点（演習）
第 5 回	総論：病態の理解	第 20 回	
第 6 回		第 21 回	電気刺激療法総論：物理学・生理学
第 7 回	温熱療法総論：熱エネルギー、電磁波	第 22 回	
第 8 回		第 23 回	電気刺激療法各論：実施上の注意点（演習）
第 9 回	温熱療法総論：音波	第 24 回	
第 10 回		第 25 回	水治療法：物理学・生理学（演習含む）
第 11 回	温熱療法各論：（演習）	第 26 回	
第 12 回	ホットパック，パラフィン，超短波，極超短波	第 27 回	牽引療法（演習）
第 13 回	温熱療法各論：超音波（演習）	第 28 回	
第 14 回		第 29 回	その他の療法、まとめ
第 15 回	寒冷療法総論	第 30 回	
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕	筆記試験 60%、実技試験 30%、積極的取組 10%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	生体に物理的エネルギーを与えることで、様々な生体反応を期待して行う療法です。 操作法を間違えれば医療事故にも繋がりますので、操作法は勿論のこと禁忌と適応をしっかりと理解するように学習をして下さい。		
教科書又は 参考書等	教科書：千住 秀明 監：「物理療法第 2 版」神稜文庫 配布資料		
オフィスアワー	火～土曜日 終日 職員室		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	各疾患における病態を説明して、生理的効果や禁忌事項を実技演習を通して理解度を上げていきたい。 どのような対象者にどの物理療法をどの程度提供し、どのような効果を期待するのかを考える機会とする。		

授業科目	義肢装具学	科目担当者	矢原 友成・宿輪 秀範
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 60 時間
授業形態	講義・演習	単位数	3 単位
授業の概要と方法	装具、義肢とは何か。概要から代表的な装具、義肢を疾患も絡めて学んでいきます。また、より理解を深めるために実際に短下肢装具の製作を行います。		
到達目標	①義肢装具の定義や歴史及び目的が理解できる。 ②疾患に応じた的確な装具の選択、チェックアウトができる。 ③装具の製作実習を通して、構造や製作過程、適合判定などについて理解できる。		

授 業 計 画	内 容				
第 1 回	装具学総論	矢原	第 16 回	短下肢装具製作②実技演習	宿輪
第 2 回	下肢装具①：部品		第 17 回	短下肢装具製作③実技演習	宿輪
第 3 回	下肢装具②：適合判定	矢原	第 18 回		
第 4 回	下肢装具③：適応疾患	矢原	第 19 回	義肢学総論	矢原
第 5 回			第 20 回		
第 6 回	下肢装具④：靴の補正	矢原	第 21 回	股義足	矢原
第 7 回			第 22 回		
第 8 回	上肢装具と適応疾患	矢原	第 23 回	大腿義足	矢原
第 9 回			第 24 回		
第 10 回	体幹装具と適応疾患	矢原	第 25 回	下腿義足・サイム義足	矢原
第 11 回			第 26 回		
第 12 回	装具学まとめ	矢原	第 27 回	義手	矢原
第 13 回	短下肢装具製作①実技演習	宿輪	第 28 回		
第 14 回			第 29 回	総括	矢原
第 15 回	短下肢装具製作②実技演習	宿輪	第 30 回		
成績方法 [評価項目と割合]	筆記テスト 70%、レポート 20%、授業の積極的取組 10%				
準備学習と事後学習 のアドバイス	義肢装具学は、理学療法に欠かせない分野であり義肢装具は理学療法を実施する際にとても重要な場面に登場します。覚えることがたくさんありますが頑張って学習しましょう。				
教科書又は 参考書等	教科書：高田 治実 監：「義肢・装具学 異常とその対応がわかる動画付き第 1 版」羊土社 参考書：加倉 井周一 編：「装具学第 4 版」医歯薬出版 参考書：澤村 誠志 編：「切断と義肢第 2 版」医歯薬出版 参考書：日本整形外科学会・他 監：「義肢装具のチェックポイント第 8 版」医学書院				
オフィスアワー	毎週木曜日 16 時 20 分～17 時 30 分 職員室				
教員の実務経験	矢原友成：理学療法士 宿輪秀範：義肢装具士				
実務経験を活かした 教育内容	義肢装具の分類や適応などを、疾患例を通じて紹介する。				

授業科目	整形外科理学療法Ⅰ	科目担当者	中野 浩志
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 60 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	適切な理学療法を実施するためには、必要とされる評価項目の選択と実施、その結果から問題点の抽出、障害の解釈、それらに基づいた運動療法が必要となる。本講義では骨折、脱臼、脊髄損傷を中心にこれらの一連の過程について基礎となる知識及び技術を習得する。		
到達目標	①骨折および脊髄損傷の病態について説明できる。 ②骨折に対する理学療法の概要について説明できる。 ③脊髄損傷に対する理学療法について説明できる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	骨折脱臼総論	第 16 回	脊髄損傷に対する理学療法
第 2 回		第 17 回	(レベル別概要)
第 3 回	運動器画像の読み方 (MRI、CT、X 線、エコー) 含む	第 18 回	脊髄損傷に対する理学療法評価① (実技演習)
第 4 回		第 19 回	
第 5 回	上肢骨折に対する理学療法 (実技演習)	第 20 回	脊髄損傷に対する理学療法評価② (実技演習)
第 6 回		第 21 回	
第 7 回	下肢骨折に対する理学療法 (実技演習)	第 22 回	脊髄損傷に対する理学療法 (実技演習)
第 8 回		第 23 回	(良肢位保持・体位変換・体位ドレナージ・呼吸介助)
第 9 回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法 (実技演習)	第 24 回	脊髄損傷に対する理学療法 (実技演習)
第 10 回		第 25 回	(起座・寝返り・座位バランス・起立訓練)
第 11 回	骨折脱臼まとめ	第 26 回	脊髄損傷に対する理学療法 (実技演習)
第 12 回	脊髄損傷 (疫学・病因・病態)	第 27 回	(トランスファー・車椅子操作)
第 13 回		第 28 回	脊髄損傷に対する理学療法 (実技演習)
第 14 回	脊髄損傷 (自律神経障害・特殊な脊髄損傷)	第 29 回	(歩行訓練・応用歩行訓練・転倒訓練)
第 15 回		第 30 回	脊髄損傷まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	授業の積極的取組 10%、中間テスト 20%、実技試験 20%、定期試験 50%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	整形外科疾患 (骨折・脊髄損傷) に対する理学療法の知識と技術を深めましょう。 疾患を通してその病態・評価・理学療法の方法をイメージしましょう。 日々の学習の大切さを再認識しましょう。		
教科書又は 参考書等	教科書：千住 秀明 監：「運動器疾患の理学療法第 1 版」神陵文庫 教科書：神奈川リハビリテーション病院脊髄損傷マニュアル編集委員会：「脊髄損傷リハビリテーションマニュアル第 3 版」医学書院 参考書：岩崎 洋 編：「脊髄損傷理学療法マニュアル第 3 版」文光堂 配布資料		
オフィスアワー	毎週木曜 16：10～16：30 職員室		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	骨折および脊髄損傷の病態について理解し、実技を交えた授業を行う。		

授業科目	整形外科理学療法Ⅱ	科目担当者	矢原 友成・中野 浩志
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 60 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	整形外科理学療法Ⅰに続き、これまで学んだ知識を集約し、各関節における機能解剖、評価方法、実際の理学療法を通じ、より実践的な理学療法の内容を学習する。またケースレポートを実施し、統合と解釈から問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案と実施までの理学療法の一連の過程を学習する。そのためにパワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心にまずは理論を講義形式で学習し、実践できるように演習形式で実技を学習する。		
到達目標	①解剖学や運動学等で学習した知識・技術の復習をもとに機能解剖学について理解できる。 ②部位別・疾患別における各々の病態把握ができる。 ③評価・理学療法に関して確実に身につけることができる。		

授 業 計 画		内 容	
第 1 回	肩関節の機能解剖 (中野)	第 16 回	(骨、筋、関節、メカニズム) (中野)
第 2 回	(骨、筋、関節、メカニズム)	第 17 回	膝関節疾患の理学療法評価 (中野)
第 3 回	肩関節疾患の理学療法評価 (中野) 画像所見 (MRI、CT、X 線、エコー) 含む	第 18 回	画像所見 (MRI、CT、X 線、エコー) 含む (実技演習)
第 4 回	(実技演習)	第 19 回	膝関節疾患の理学療法 (中野)
第 5 回	肩関節疾患の理学療法 (中野)	第 20 回	基礎 疾患別応用 (実技演習)
第 6 回	基礎 疾患別応用 (実技演習)	第 21 回	脊柱の機能解剖 (矢原)
第 7 回	肩関節疾患の理学療法 (中野)	第 22 回	(骨、筋、関節、メカニズム)
第 8 回	(ケーススタディ)	第 23 回	脊柱の評価 (矢原)
第 9 回	股関節の機能解剖 (矢原)	第 24 回	画像所見 (MRI、CT、X 線、エコー) 含む (実技演習)
第 10 回	(骨、筋、関節、メカニズム)	第 25 回	脊柱疾患の理学療法評価 (矢原)
第 11 回	股関節の評価 (矢原)	第 26 回	理学療法評価、プログラム立案 (実技演習)
第 12 回	画像所見 (MRI、CT、X 線、エコー) 含む (実技演習)	第 27 回	脊柱疾患の理学療法 (矢原)
第 13 回	股関節疾患の理学療法 (矢原)	第 28 回	基礎 疾患別応用 (実技演習)
第 14 回	基礎 疾患別応用 (実技演習)	第 29 回	総括 (矢原、中野)
第 15 回	膝関節の機能解剖 (中野)	第 30 回	
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業への積極的取組 10%、レポート 10%、定期試験 80%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	整形外科疾患に対する理学療法を深めよう。一つの偏った解釈ではなく、色々な考え方ができる学習をして欲しい。各実習に向けて臨症的な知識・技術を習得することを目標として頑張りましょう。		
教科書又は 参考書等	教科書：奈良 勲 監：「標準理学療法学運動療法学各論第 4 版」医学書院 配布資料		
オフィスアワー	毎週火曜 12：10～13：00 職員室		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	整形外科における理学療法士の実務を通して、臨床で担当する機会の多い各疾患における病態を学び、評価、アプローチ方法について提供する。		

授業科目	中枢神経障害理学療法Ⅰ	科目担当者	竹本 美咲
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 60 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	脳血管障害は理学療法の主要な対象疾患であり、基礎的な脳の機能解剖をはじめ、脳血管障害の分類や症状、一般的治療、評価、診断について理解する必要がある。 本科目では、写真や動画、模型などを積極的に用いながら講義をすすめ、また隔週での小テストを行い脳血管障害の理学療法を行うための基盤となる知識を構築していく。		
到達目標	①脳に興味を持ち、脳の理解を深めることができる。 ②脳血管障害の基礎を理解できる。 ③中枢神経障害理学療法Ⅱへと繋がる知識を身に付けることができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	脳の機能解剖①：大脳	第 16 回	脳卒中の概要④：くも膜下出血、頭部外傷
第 2 回		第 17 回	脳卒中の概要⑤：高次脳機能障害・認知症
第 3 回	脳の機能解剖②：大脳基底核	第 18 回	
第 4 回	脳の機能解剖③：大脳辺縁系・間脳	第 19 回	脳卒中の評価①：一般的評価・総合評価など
第 5 回	脳の機能解剖④：小脳・脳幹	第 20 回	
第 6 回	脳の機能解剖⑤：脊髄・脳循環	第 21 回	脳卒中の評価②：姿勢・動作分析
第 7 回	脳の機能解剖⑥：伝導路	第 22 回	
第 8 回	脳の機能解剖⑦：血管系	第 23 回	脳卒中の評価③：脳画像（CT・MRI）
第 9 回		第 24 回	
第 10 回	脳の機能解剖⑧：まとめ（グループ演習）	第 25 回	脳卒中の評価④：脳画像（症例）
第 11 回	脳卒中の概要①：総論	第 26 回	
第 12 回	脳卒中の概要②：脳出血	第 27 回	医療施設の見学・演習（オンライン） （多職種連携、チーム医療）
第 13 回		第 28 回	
第 14 回	脳卒中の概要③：脳梗塞	第 29 回	まとめ
第 15 回		第 30 回	
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕	筆記試験 60%、小テスト 30%、授業への積極的取組 10%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	基礎医学をしっかりと習得し、脳血管障害の臨床症状を理解する必要があります。隔週での小テストを実施するため、毎回の復習も行いましょう。興味をもって多くの教材を利用し、積極的に学習してください。		
教科書又は 参考書等	教科書：医療情報科学研究所編：「病気がみえる Vol.7 脳・神経第2版」メディックメディア 参考書：酒向 正春・大村 優慈 著：「リハに役立つ脳画像 改訂第2版」MEDICALVIEW 配布資料		
オフィスアワー	毎週火曜日 木曜日 16：10～17:30 職員室		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	国家試験・臨床に対応できる知識を身に付けるため、基盤となる機能解剖の習得を徹底し、臨床像と脳画像との関連がイメージできる授業を行う。		

授業科目	中枢神経障害理学療法Ⅱ	科目担当者	竹本 美咲
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 60 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	脳血管障害はその病型や病期によって関わりが異なる。脳血管障害理学療法Ⅰで得た基礎知識を基に、病型別・病期別のリスク管理や実際の理学療法、生活支援などを学ぶ。 本科目では、実技やケーススタディ、ディスカッションを実施し、脳血管障害に対するリハビリテーションの理解を深め臨床力を構築していく。		
到達目標	① 脳血管障害の障害像をイメージできる。 ② 病型別・病期別の脳血管障害のリハビリテーションを理解できる。 ③ 症例ごとの違いを理解し、適切な理学療法を考案・実施することができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	総論	第 16 回	回復期の理学療法⑥歩行（理学療法の実際）
第 2 回	急性期の理学療法①病型別治療	第 17 回	
第 3 回	急性期の理学療法②リスク管理	第 18 回	回復期の理学療法⑦歩行（異常歩行）
第 4 回		第 19 回	
第 5 回	急性期の理学療法③ポジショニング	第 20 回	ケーススタディ①
第 6 回	急性期の理学療法④関節可動域練習	第 21 回	統合と解釈
第 7 回	急性期の理学療法⑤実技演習	第 22 回	ケーススタディ②
第 8 回	急性期の理学療法⑥離床	第 23 回	問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案
第 9 回	回復期の理学療法①寝返り・起き上がり	第 24 回	生活期の理学療法（片麻痺の ADL）
第 10 回	回復期の理学療法②座位	第 25 回	
第 11 回	回復期の理学療法③立ち上がり	第 26 回	合併症と外傷性脳損傷
第 12 回	回復期の理学療法④立位	第 27 回	医療施設の見学・演習（オンライン） （評価から治療までの流れ）
第 13 回	回復期の理学療法⑤実技演習	第 28 回	
第 14 回	回復期の理学療法⑤歩行（下肢装具）	第 29 回	まとめ
第 15 回		第 30 回	
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕	筆記試験 70%、実技試験 20%、積極的取組 10%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	脳血管障害は理学療法の主要な対象疾患だということを理解し、机上・実技ともに繰り返し学習しましょう。 積極的・主体的なディスカッションを行い、脳血管障害の障害像を理解するよう努めましょう。		
教科書又は 参考書等	教科書：千田 富義・高見 彰淑・他 編：「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第 3 版」MEDICALVIEW 配布資料		
オフィスアワー	毎週火曜日 木曜日 16：10～17:30 職員室		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	脳血管障害の各時期で具体的な症例を提示し、理学療法評価や脳画像など様々な情報を基に患者像を把握、個々の 問題点を解決するための理学療法についてディスカッションし、臨床的思考を深めていく。		

授業科目	神経・筋障害理学療法	科目担当者	竹本 美咲
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 60 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	神経変性疾患の多くは複雑な障害像を呈することが知られており、それぞれの疾患における病態や病理所見、代表的な症状、理学療法などを理解する必要がある。 この科目では、パーキンソン病など主要な神経変性疾患を中心に、グループ学習・ディスカッションを積極的に行いながら疾患に対する理解をより深めていくと共に理学療法の基礎を学ぶ。		
到達目標	①主要な神経変性疾患の病態や症状を理解できる。 ②病期別のリハビリテーションを理解できる。 ③疾患についての知識を共有することができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	神経筋障害総論	第 16 回	筋萎縮性側索硬化症とは
第 2 回	パーキンソン病とは（病態と治療）	第 17 回	グループ演習
第 3 回	グループ演習	第 18 回	筋萎縮性側索硬化症の理学療法
第 4 回	パーキンソン病の評価	第 19 回	グループ演習
第 5 回	グループ演習	第 20 回	筋萎縮性側索硬化症　まとめ
第 6 回	パーキンソン病の理学療法	第 21 回	多発性硬化症
第 7 回	グループ学演習	第 22 回	グループ演習
第 8 回	パーキンソン病　まとめ	第 23 回	Duchenne 型筋ジストロフィー
第 9 回	運動失調症とは	第 24 回	グループ演習
第 10 回	グループ演習	第 25 回	ギランバレー症候群
第 11 回	運動失調症の評価	第 26 回	グループ演習
第 12 回	グループ演習	第 27 回	多発筋炎などその他の疾患
第 13 回	運動失調症の理学療法	第 28 回	グループ演習
第 14 回	グループ演習	第 29 回	まとめ
第 15 回	運動失調症　まとめ	第 30 回	グループ演習
成績評価の方法 [評価項目と割合]	筆記試験 60％、確認テスト 25％、授業への積極的取組 15％		
準備学習と事後学習 のアドバイス	病態、経過、リハビリテーションの概念などグループワークで確認することを準備学習の一つとします。 各疾患の病態を理解し障害像がイメージできるよう努めてください。主体的に学ぶ姿勢が重要です。		
教科書又は 参考書等	教科書：医療情報科学研究所　編：「病気がみえる Vol.7 脳・神経第 2 版」メディックメディア 配布資料		
オフィスアワー	毎週火曜日　毎週木曜日　16：10～17:30　職員室		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	経過と共に心身の健康度が低下する変性疾患に対し、理学療法を駆使して ADL、QOL をいかに維持するか、患者の心理、家族の思いにどう寄り添うか学生と考えていく。		

授業科目	発達障害理学療法	科目担当者	近藤 直樹／松坂 洋一
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	発達障害、特に小児期の運動障害に対する理学療法の基礎を学習する。脳性麻痺児・者を中心にその他の肢体不自由児の障害特性や評価方法の実際に至るまでの発達学的な考え方及び知識を深める。同時にチーム医療や小児期の福祉制度についても演習をまじえながら学習する。		
到達目標	① 小児療育の概要や脳性麻痺の疾患特性について知識を深める。 ② 脳性麻痺の理学療法評価・治療について理解することができる。 ③ 脳性麻痺の整形外科治療における理学療法評価・治療について理解することができる。 ④ 発達障害理学療法における装具および補装具の実際について理解することができる。 ⑤ 小児神経筋疾患の理学療法評価・治療について理解することができる。 ⑥ 重症心身障害の理学療法評価・治療について理解することができる。 ⑦ 小児整形外科疾患の理学療法評価・治療について理解することができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	発達障害理学療法 概論
第 2 回	脳性麻痺総論（定義、病型分類、麻痺部位、二次障害）
第 3 回	脳性麻痺の理学療法評価 ① （演習含む）
第 4 回	脳性麻痺の理学療法評価 ② （演習含む）
第 5 回	脳性麻痺の理学療法／痙直型 （演習含む）
第 6 回	脳性麻痺の理学療法／アトニー型 （演習含む）
第 7 回	中間テスト
第 8 回	小児整形外科疾患の理学療法 （演習含む）
第 9 回	小児整形外科治療における理学療法 （演習含む）
第 10 回	小児神経筋疾患の理学療法① （演習含む）
第 11 回	小児神経筋疾患の理学療法② （演習含む）
第 12 回	重症心身障害の理学療法 （演習含む）
第 13 回	小児理学療法における装具・補装具
第 14 回	演習／症例検討 ①
第 15 回	演習／症例検討 ②
成績方法 〔評価項目と割合〕	定期試験：90％ 授業中の取り組み：10％
準備学習と事後学習 のアドバイス	
教科書又は 参考書等	教科書：細田 多穂・他：「小児理学療法学テキスト（第3版）」 南江堂
オフィスアワー	授業終了後
教員の実務経験	理学療法士
実務経験を活かした 教育内容	

授業科目	内部疾患理学療法 I	科目担当者	河波 恭弘
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	内部疾患に対して適切な理学療法を実施するためには、必要とされる評価項目の選択と実施、その結果から問題点の抽出、障害の解釈、それらに基づいた運動療法が必要となる。 本講義では、呼吸器疾患を中心にこれらの一連の過程について基礎となる知識及び理学療法技術を習得する。方法は、プレゼンテーションを利用した講義、レポート課題および実技を行う。		
到達目標	1 呼吸器疾患の理学療法について理解できる。 2 呼吸器疾患における基本的な評価方法、理学療法治療を理解し、臨床応用できる。 3 喀痰吸引について理解できる。 4 理学療法実施時のリスク管理を理解できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	内部障害とは？
第 2 回	呼吸器疾患の機能解剖
第 3 回	酸素化能と換気能力
第 4 回	閉塞性換気障害と拘束性換気障害
第 5 回	呼吸器疾患の病態と換気障害（薬理含む）
第 6 回	呼吸器疾患の理学療法評価（演習）
第 7 回	呼吸器疾患の理学療法評価（画像・栄養）（演習）
第 8 回	呼吸器疾患の理学療法の実際（演習）
第 9 回	呼吸器疾患の理学療法の実際（演習）
第 10 回	呼吸器疾患の理学療法の実際（演習）
第 11 回	呼吸器疾患の理学療法の実際（演習）
第 12 回	胸腹部外科術周術期および ICU での呼吸理学療法
第 13 回	喀痰吸引総論
第 14 回	喀痰吸引（演習）
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	積極的取り組み（10％） レポート課題（10％） 本試験（80％）
準備学習と事後学習 のアドバイス	授業後、重要であると思われるところについてノートを作成すること。学生間でのディスカッションを積極的に行うこと。
教科書又は 参考書等	教科書：高橋 哲也 編：「最新 理学療法学講座 内部障害理学療法学」 医歯薬出版 参考書：細田 多穂 監：「内部障害理学療法学テキスト 第4版」 南江堂
オフィスアワー	毎週水曜、木曜の 16 時～17 時まで、職員室にて対応可能。
教員の実務経験	理学療法士
実務経験を活かした 教育内容	病院での臨床経験で主に救急医療における呼吸器および循環器理学療法の実務を経験した。具体的には、各病期における治療法や運動療法について運動生理学をベースに実技も含め実践的に提供する。

授業科目	内部疾患理学療法Ⅱ	科目担当者	河波恭弘
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 60 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	内部疾患に対して適切な理学療法を実施するためには、必要とされる評価項目の選択と実施、その結果から問題点の抽出、障害の解釈、それらに基づいた運動療法が必要となる。 本講義では、代謝疾患、心疾患、血管疾患、腎疾患、がんを中心にこれらの一連の過程について基礎となる知識及び技術を習得する。方法は、プレゼンテーションを利用した講義、レポート課題および演習を行う。		
到達目標	1 心臓・代謝・血管・腎・がんに対する評価と理学療法について理解できる。 2 基本的な評価法、理学療法治療を理解し、臨床応用できる。 3 理学療法実施時のリスク管理を学ぶことができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	心臓の機能解剖	第 16 回	末梢動脈疾患の病態、画像、治療
第 2 回	心臓の機能解剖	第 17 回	大動脈疾患の病態、画像、治療
第 3 回	急性心筋梗塞・狭心症の病態、治療、薬理	第 18 回	動脈疾患の評価・理学療法（演習）
第 4 回	心筋梗塞・狭心症の心電図（演習）	第 19 回	肥満、メタボリックシンドロームの病態について
第 5 回	各種不整脈の特徴と PT の対応（演習）	第 20 回	メタボリックシンドロームの評価と理学療法（演習）
第 6 回	各種不整脈の特徴と PT の対応（演習）	第 21 回	糖尿病の病態、薬理について
第 7 回	急性心筋梗塞の各検査（画像）・評価	第 22 回	糖尿病の障害理解と運動
第 8 回	心肺運動負荷試験	第 23 回	糖尿病の理学療法（演習）
第 9 回	急性期心臓リハと理学療法	第 24 回	腎疾患・腎機能障害の病態、薬理
第 10 回	急性期心臓リハと理学療法（演習）	第 25 回	腎機能障害の評価と理学療法（演習）
第 11 回	回復期心臓リハと理学療法	第 26 回	がんの病態、薬理、治療における有害事象
第 12 回	回復期心臓リハと理学療法（演習）	第 27 回	がんの理学療法評価（画像所見）（演習）
第 13 回	心不全の病態、薬理、代償機構の破綻	第 28 回	がんの理学療法（演習）
第 14 回	心不全患者の理学療法（演習）	第 29 回	講義まとめ（NBM、物語に基づく理学療法）
第 15 回	心肺運動負荷試験の実際（演習）	第 30 回	演習まとめ（内部疾患における他疾患併存）
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕	積極的取り組み（10%）レポート課題（10%）、中間テスト（40%）、本試験（40%）		
準備学習と事後学習 のアドバイス	授業後、重要であると思われるところについてノートを作成すること。学生間でのディスカッションを積極的に行うこと。		
教科書又は 参考書等	教科書：高橋 哲也 編：「最新 理学療法学講座 内部障害理学療法学」 医歯薬出版 参考書：細田 多穂 監：「内部障害理学療法学テキスト 第4版」 南江堂		
オフィスアワー	毎週水曜、木曜の 16 時～18 時まで、職員室にて対応可能。		
教員の実務経験	理学療法士		
実務経験を活かした 教育内容	病院での臨床経験で主に救急医療における呼吸器および循環器理学療法の実務を経験した。具体的には、各病期における治療法や運動療法について運動生理学をベースに実技も含め実践的に提供する。		

授業科目	高齢者理学療法学	科目担当者	野口 敦
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	我が国の高齢化率は、世界に類を見ない速さで進行している。もはや国民 4 人に 1 人以上が高齢者といわれている。 理学療法の臨床においても高齢の対象者は、益々増加して遭遇する頻度は多い。 ここでは、高齢者の特徴を始めとして、複合疾患を有する病態像を理解する。また高齢者の心理など精神面についてその特徴を修得する。 なお、課題を提示し、グループ毎にまとめ、プレゼンテーション発表を行う。		
到達目標	①高齢者の特徴を理解することができる。 ②高齢者の心身機能の変化を理解することができる。 ③高齢期の理学療法を理解し実施できるようになる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	総論 : 高齢者の定義と現状
第 2 回	高齢者の特徴① : 老年症候群
第 3 回	高齢者の特徴② : 老化、高齢者にみられる代表的な症候
第 4 回	高齢者の特徴③ : 廃用症候群、寝たきり
第 5 回	高齢者の特徴④ : サルコペニアとフレイル、栄養管理（リハビリテーション栄養含む）
第 6 回	グループワーク（討議・演習）
第 7 回	グループワーク（討議・演習）
第 8 回	発表
第 9 回	加齢に伴う身体的変化 : 呼吸器系・循環器系・消化吸収機能・排泄機能・運動機能・感覚機能・神経機能・他
第 10 回	加齢に伴う変化① : 体力 体力テスト（演習）
第 11 回	加齢に伴う変化② : 歩行、心理
第 12 回	高齢者の評価 : 運動機能（筋力、歩行能力、バランス機能）、生活機能（ADL）（演習）
第 13 回	高齢者に対する理学療法①（演習）
第 14 回	高齢者に対する理学療法②（演習）
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業の積極的取組 10%、提出物・発表 20%、試験 70%
準備学習と事後学習 のアドバイス	教科書を事前に目を通し、授業を通して広い視野で高齢者特性の知識を深め、高齢者理学療法を学んでください。 まとめ課題は、その都度の提出が必要です。事後学習はしっかり行いましょう。
教科書又は 参考書等	教科書：池添 冬芽 編：「高齢者理学療法学」メジカルビュー社 参考書：島田 裕之・他 編：「高齢者理学療法学」医歯薬出版
オフィスアワー	火～土曜日 終日 職員室
教員の実務経験	理学療法士
実務経験を活かした 教育内容	高齢者の特徴を紹介して、理学療法の専門的観点から高齢者理学療法の介入方法を講義演習を通じて授業を行う。

授業科目	スポーツ理学療法	科目担当者	中野 浩志
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	スポーツ場面におけるチーム医療の中で理学療法士が果たす役割を学習する。医療機関におけるリハビリテーション、およびスポーツ現場におけるアスレティックリハビリテーションを学習する。スポーツ外傷・障害に限らず、骨・関節疾患の評価を学習し、理学療法プログラムを立案・実施する技術を学習する。パラスポーツの現状やパラアスリートとの関わり方についても学習する。		
到達目標	①スポーツ選手を取り巻く環境を理解し、理学療法士の役割について説明できる。 ②関節および疾患ごとに、適切な評価を実施できる。 ③骨・関節疾患を評価し、理学療法を実施するために必要な解剖について説明できる。 ④バイオメカニクスとスポーツ理学療法との関連について説明できる。 ⑤スポーツ選手の体調の調整および再調整方法を理解できる。 ⑥パラスポーツについての理解と理学療法士との関わり方について理解する。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	スポーツ理学療法 総論
第 2 回	スポーツ外傷・障害の理解
第 3 回	上肢のスポーツ外傷の発生機序と理学療法（実技演習）
第 4 回	下肢のスポーツ外傷の発生機序と理学療法（実技演習）
第 5 回	体幹のスポーツ外傷の発生機序と理学療法（実技演習）
第 6 回	上肢のスポーツ障害の発生機序と理学療法（実技演習）
第 7 回	下肢のスポーツ障害の発生機序と理学療法（実技演習）
第 8 回	体幹のスポーツ障害の発生機序と理学療法（実技演習）
第 9 回	成長期のスポーツ外傷・障害（実技演習）
第 10 回	テーピング総論
第 11 回	テーピング演習①（非伸縮テープ・伸縮テープ）（実技演習）
第 12 回	テーピング演習②（キネシオテープ）（実技演習）
第 13 回	女性アスリートへの対応と特徴
第 14 回	障がい者スポーツ総論
第 15 回	まとめ
成績方法 [評価項目と割合]	筆記試験 70%、実技試験 20%、授業への取り組み 10%
準備学習と事後学習 のアドバイス	整形外科理学療法の知識や理学療法評価学など他科目の知識も必須になります。本科目のみの学習ではなく、他科目との繋がりや身体運動の理解も考えながら取り組んでください。
教科書又は 参考書等	教科書：陶山 哲夫・赤坂 清和：「スポーツ理学療法学―動作に基づく外傷・障害の理解と評価・治療の進め方―改訂第 2 版」MEDICAL VIEW
オフィスアワー	毎週木曜（～17：30）
教員の実務経験	理学療法士
実務経験を活かした 教育内容	整形外科領域の勤務を通じて経験したスポーツ理学療法など、これまでの実務経験を交えて講義する

授業科目	日常生活活動Ⅰ	科目担当者	大島 秀明
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	人と向かい合うことを基本とする理学療法において、日常生活活動(ADL)は大きな領域を占める。その範囲は寝返りや起き上がりなどの基本動作をはじめ、食事や排泄など生命維持活動、家事や交通手段の利用などの社会的活動、生活の質(QOL)、ADL 支援機器など多岐にわたる。ここではパワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心に講義形式で ADL の基礎知識を学習する。		
到達目標	①ADL の概念と範囲を理解することができる。 ②ICIDH と ICF の違いをすることが理解できる。 ③ADL の評価の種類と内容を説明することができる。 ④生活場面における基本動作の重要性を理解することができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	総論 (概念、範囲、手段的日常生活活動)
第 2 回	ADL と障害(ICIDH・ICF)
第 3 回	ADL と QOL (健康関連 QOL : HRQOL など)
第 4 回	セルフケア
第 5 回	ADL 評価の総論
第 6 回	ADL 評価 (BI、FIM など)
第 7 回	姿勢 (臥位、座位、立位)
第 8 回	床上動作 ① 総論
第 9 回	床上動作 ② (寝返り、起き上がり、立ち上がり)
第 10 回	移動・移乗動作
第 11 回	歩行補助具①杖・歩行器
第 12 回	歩行補助具②車椅子
第 13 回	バリアフリーとユニバーサルデザイン (社会環境、住環境、家屋改造)
第 14 回	リハビリテーション関連機器 (自助具、日常生活用具、支援機器)
第 15 回	まとめ
成績方法 [評価項目と割合]	筆記試験 90%、授業への積極的取組 10%
準備学習と事後学習 のアドバイス	後期に受講する日常生活活動Ⅱへ繋がるよう障害と ADL との関連を正しくとらえ、各個人の生活を中心とした理学療法支援を行っていくという視点を身につけて下さい。
教科書又は 参考書等	教科書：鶴見 隆正・他 編：「標準理学療法学日常生活活動学・生活環境学 第 6 版」 医学書院 授業の中で、適宜、資料を配布する。
オフィスアワー	毎週 月・火・木曜日 16:10～17:30 職員室
教員の実務経験	理学療法士
実務経験を活かした 教育内容	対象者の生活・人生を考えながら学ぶ科目であることを常に指導していく。また、イメージしやすいよう ADL への介入が必要であった具体例なども踏まえて講義する。

授業科目	日常生活活動Ⅱ	科目担当者	大島 秀明
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	日常生活活動Ⅰで学んだ基本動作をはじめ、食事や排泄など生命維持活動、家事や交通手段の利用などの社会的活動の基礎知識をもとに、その実際と指導法を実技中心に経験し修得する。また臨床現場で活用できるように各対象者の疾患に対応した支援と指導の方法について学習する。		
到達目標	①日常生活活動Ⅰで修得した知識に基づき実践することができる。 ②ADL 評価を的確に実施することができる。 ③ADL に影響をおよぼす代表的な疾患の特徴を把握しそれぞれの生活場면을想起し支援と指導ができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	ADL 評価の実際（FIM、BI）（演習）
第 2 回	床上動作 ①（寝返り、起き上がり、立ち上がり）（演習）
第 3 回	床上動作 ②（寝返り、起き上がり、立ち上がり）（演習）
第 4 回	基本動作（移動）の理論と指導法（演習）
第 5 回	基本動作（移乗）の理論と指導法（演習）
第 6 回	セルフケア（食事、排泄、更衣、整容、入浴）の実際（演習）
第 7 回	整形外科疾患（リウマチ）の ADL 指導と介助（演習）
第 8 回	整形外科疾患（THA）の ADL 指導と介助（演習）
第 9 回	切断の ADL 指導と介助（演習）
第 10 回	脊損の ADL 指導と介助（演習）
第 11 回	内部疾患の ADL 指導と介助（演習）
第 12 回	生活環境の評価（演習）
第 13 回	住宅改修・環境調整（演習）
第 14 回	バリアフリーとユニバーサルデザイン（社会環境、住環境、家屋改造）の実際（演習）
第 15 回	まとめ
成績方法 [評価項目と割合]	定期試験 70%、実技 20%、授業への積極的取組 10%
準備学習と事後学習 のアドバイス	日常生活活動Ⅰで学んだ知識を活かし、より実践的な技能を修得しましょう。各対象者の生活・人生をイメージできるように努めてください。
教科書又は 参考書等	教科書：鶴見 隆正・他 編：「標準理学療法学日常生活活動学・生活環境学 第 6 版」 医学書院 配布資料
オフィスアワー	毎週 月・火・木曜日 16 時～17 時 30 分 職員室
教員の実務経験	理学療法士
実務経験を活かした 教育内容	対象者の生活・人生を考えながら学ぶ科目であることを常に指導していく。また、イメージしやすいよう ADL への介入が必要であった具体例なども踏まえて講義する。

授業科目	地域理学療法学	科目担当者	稲富 武志
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステムの概念は非常に近い考え方です。今後、超高齢社会を迎えるにあたり、予防、急性期、回復期、生活期のリハビリテーションの必要性は益々高く広範囲に及びます。その中で理学療法士として求められる、知識と技術を身に付け、新しい時代を切り開く考え方を学びます。		
到達目標	①超高齢社会に対応すべく、地域リハビリテーション、地域包括ケアシステムの必要性を理解することができる。 ②予防、急性期、回復期、生活期の各ステージのリハビリテーションを理解することができる。 ③治す医療から、治し支える医療を提供するために生活機能（ＩＣＦ）を理解することができる。 ④医療保険、介護保険を中心に社会保障制度改革を理解することができる。 ⑤事例を通して在宅リハビリテーション、住宅改修、福祉用具の利用を知ることができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	地域リハビリテーションの概念 稲富
第 2 回	地域リハビリテーションの流れ① 稲富
第 3 回	地域リハビリテーションの流れ② 稲富
第 4 回	社会保障制度改革 稲富
第 5 回	医療保険制度の理解 稲富
第 6 回	介護保険制度の理解① 稲富
第 7 回	介護保険制度の理解② 稲富
第 8 回	生活機能のとらえ方① 稲富
第 9 回	生活機能のとらえ方② 稲富
第 10 回	生活環境の整備（住宅改修・福祉用具、演習）① 稲富
第 11 回	生活環境の整備（住宅改修・福祉用具、演習）② 稲富
第 12 回	地域リハビリテーションの実際（事例） 稲富
第 13 回	訪問リハビリテーションの実際①
第 14 回	訪問リハビリテーションの実際②
第 15 回	訪問リハビリテーションの実際③
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕	授業の取り組み 10%、授業レポート 10%、定期試験 80%
準備学習と事後学習 のアドバイス	履修した内容を自身の言葉で説明できるようになって頂きたい。 外部環境の変化に対応できる理学療法士となるために、日頃より社会保障等についての情報を収集して欲しい。
教科書又は 参考書等	教科書：大田 仁史・他 編：「地域リハビリテーション論 Ver. 8」三輪書店 配布資料
オフィスアワー	講義終了後 講師控室
教員の実務経験	理学療法士および介護支援専門員
実務経験を活かした 教育内容	生活支援のアセスメントについて講義演習を行う。 訪問リハビリテーションの実際について講義をする。

授業科目	臨床実習	科目担当者	矢原友成・大島秀明・中野浩志・ 竹本美咲・河波恭弘・野口敦
学年	3 年	学期/時間数	前期 / 855 時間
授業形態	実習	単位数	19 単位
授業の概要と方法	臨床実習は学院で修得した知識や技能を手がかりに、学内演習では経験できない実践環境でより一層の理解を深めるための教育機会である。実習指導者の教育的支援の下で対象者のためを考え、対象者と実習指導者から実践を通して、理学療法士としてのプロフェッショナリズムを学ぶ。実習構成は評価実習と総合臨床実習とし、それぞれの到達目標を達成するために、臨床現場における実習を実施する。		
到達目標	理学療法士となるために必要な知識、技術を習得し、合わせて医療従事者としての豊かな人格を育成する。 評価実習では、対象者への適切なリスク管理、検査測定技術を学ぶ。また目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける。 総合臨床実習では、評価実習で学んだことを基に、プログラム実施を通じて治療・指導・援助ができる技能を身につける。		

授 業 計 画	内 容
	臨床実習オリエンテーション (医療倫理、理学療法における倫理、安全管理、感染予防、個人情報保護、情報管理、事故・過誤の対応) 【評価実習】 (検査・測定、問題点の抽出、全体像の把握、目標の設定、治療プログラム立案、記録・報告) 令和 5 年 4 月 10 日 (月) ～ 4 月 29 日 (土) 3 週間 Pre OSCE 令和 5 年 4 月 5 日 (水) (実習前評価) CBT 令和 5 年 4 月 6 日 (木) (実習前知識技能評価) Post OSCE 令和 5 年 5 月 2 日 (火) (実習後評価) 【総合臨床実習】 (検査・測定、問題点の抽出、全体像の把握、目標の設定、治療プログラム立案、他部門との連携、記録・報告) 第 1 期: 令和 5 年 5 月 15 日 (月) ～ 7 月 8 日 (土) 8 週間 第 2 期: 令和 5 年 7 月 17 日 (月) ～ 9 月 9 日 (土) 8 週間 Pre OSCE 令和 5 年 5 月 11 日 (木) (実習前評価) Mid OSCE 令和 5 年 7 月 13 日 (木) (実習中間評価) Post OSCE 令和 5 年 9 月 12 日 (火) (実習後評価)
成績評価の方法 [評価項目と割合]	診療参加型臨床実習チェックリスト、提出物などを総合的に評価する。
準備学習と事後学習 のアドバイス	学内で学んできた基礎的な知識をもとに、理学療法の臨床実践をしっかりと学んでください。 臨床で経験するすべての事柄が貴重な学習の場であることを理解して真剣に取り組むことを期待します。
教科書又は 参考書等	臨床実習録 1 年次、2 年次までの全ての科目で用いたテキスト・参考書
オフィスアワー	実習終了後随時
教員の実務経験	理学療法士
実務経験を活かした 教育内容	実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。

授業科目	地域理学療法実習	科目担当者	中野浩志・大島秀明・矢原友成 竹本美咲・河波恭弘・野口敦
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 45 時間
授業形態	実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの現場を、見学を通して経験することで対象者の状態や地域での生活支援を把握するとともに、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての理学療法士としての役割について学ぶ。学内演習における理学療法評価学や理学療法治療学において得られた知識を、実際の現場で見学し、臨床実習に繋げ、問題解決能力を養うものである。		
到達目標	①対象者とのコミュニケーションを経験する。 ②スタンダードプリコーションが実施できる。 ③通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学する。 ④通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法の一部を経験する。 ⑤ケアプラン立案過程を見学する。		

授 業 計 画	内 容
	地域実習オリエンテーション （医療倫理、理学療法における倫理、安全管理、感染予防、個人情報保護、情報管理、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接） 【 地域実習 】 ・情報収集 ・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割の理解 ・多職種による協働 ・ケアプラン作成 令和 5 年 11 月 13 日（月）-17 日（金）の 5 日間を実習期間とし、各施設で見学実習を実施する。
成績方法 〔評価項目と割合〕	理学療法実習チェックリスト、提出物などを総合的に評価する。
準備学習と事後学習 のアドバイス	コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを学び理学療法の一部を経験し、今後の学習に活用してください。
教科書又は 参考書等	特になし。実習録を活用し概要説明する。
オフィスアワー	
教員の実務経験	理学療法士
実務経験を活かした 教育内容	実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。